



ゑびすさんのまち 再生フォーラム

～美保関の歴史と文化を活かした地域再生をめざして～

2012.9.23 [SUN]

日本海に突き出した島根半島。その両端に「大黒様」の出雲大社、そして「ゑびす様」の美保神社があります。美保神社は全国のゑびす社3,385社の「総本社」です。ゑびす様は「音曲の神」でもあり、「水産・海運の神」でもあることから、全国から信仰を集めてきました。美保神社には、奉納された膨大な数の楽器や船大工の貴重な技術を伝える削船が収蔵されています。

そして美保関地区では、美保神社の氏子として信仰の姿を守り伝え、航海の重要な港として趣ある町並みをつくり、営みの歴史を重ねてきました。

時代の変化に伴った課題に直面するなか、新しい知恵と多様な人々の力によって美保関地区の再生を図り、歴史・文化を伝承していくことが強く求められています。

この度、この地の深い歴史・文化・信仰を基盤とした地域再生に取り組むにあたり、知恵と力を集めていくため、「ゑびすさんのまち再生フォーラム」を開催致します。

時間	フォーラム	13:00-17:10	レセプション	17:30-19:00
参加費		無料		3,000円
場所	美保関灯台ビュッフェ 島根県松江市美保関町美保関 1388-10			

お申込み・お問合せ先

出雲三大神話 語り部の里

〒690-1501 島根県松江市美保関町美保関602

TEL/FAX 0852-73-9252 Email nonno@white.plala.or.jp

主催：地域博物館活性化実行委員会 共催：美保神社神事保存会、美保関地区地域活性化協議会

後援：島根県教育委員会、松江市教育委員会、公益財団法人 ふるさと島根定住財団、(社)松江市観光協会、山陰中央新報社、産経新聞 松江支局、朝日新聞 松江鶴局、新日本海新聞社 松江支社、中国新聞社、読売新聞 松江支局、毎日新聞 松江支局、日本海テレビ、BSS山陰放送、テレビ朝日 松江支局、山陰ケーブルビジョン株式会社、エフエム山陰

<順不同>

PROGRAM

- 12:30～ 受付開始
- 13:00～13:30 映像上映
- 13:30～13:45 開会挨拶
- 13:45～14:30 基調講演
「美保の埜に集う神々」
関 和彦 氏
(鳥根県古代文化センター客員研究員・國學院大學博士)
- 14:30～15:15 基調講演
「未来に残す景観とは」
松岡 恭子 氏
(建築家・㈱スピングラス・アーキテクト代表取締役・東京電機大学准教授)
- 15:15～15:25 (休憩)
- 15:25～17:05 パネルディスカッション
「美保神社と地域コミュニティの再生」
《パネリスト》
市村 次夫 氏 (㈱小布施堂 代表取締役)
北國 恵久 氏 (㈱北國 代表取締役)
仲野 義文 氏 (石見銀山資料館 館長)
《コーディネーター》
藤原 洋 氏 (地域博物館活性化実行委員会 委員長)
- 17:05～17:10 おわりの挨拶
- 17:10 閉会
- 17:30～19:00 レセプション ～雅楽の夕べと交流パーティ～
(平成24年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業(文化庁))

PROFILE



せき かずひこ
関 和彦 氏

鳥根県古代文化センター客員研究員
國學院大學博士

1946年、東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、同大学院修士課程修了。國學院大學から博士(歴史学)授与。共立女子第二中学高等学校校長を務め、2012年3月末定年退職。社会活動として鳥根県古代文化センター客員研究員、雲南市文化財保護審議員、八王子市史編纂委員・原始古代部会長、鳥根半島四十二浦巡り再発見研究会座長を務める。主な著書に、『出雲風土記註論』(明石書房)、『古代出雲への旅』、『古代農民忍羽を訪ねて』(中公新書)、『新・古代出雲史』(藤原書店)、『卑弥呼』(三省堂)、『邪馬台国論』、『日本古代社会生活史の研究』(校倉書房)、『風土記と古代社会』(塙書房)、『山陰の神々』、『古代に行った男ありけり』(今井出版)他。



まつおか きょうこ
松岡 恭子 氏

建築家・株式会社スピングラス・アーキテクト
代表取締役・東京電機大学准教授

1987年、九州大学工学部建築学科卒業後、1990年東京都立大学大学院修士課程、1991年コロンビア大学大学院修士課程を修了。1992年に設計事務所をニューヨークに設立し、台湾での活動を経て2000年より拠点を福岡に置く。住居や商業施設などの建築物の設計のほか、橋梁・道路などの土木構造物、身近な家具や路線バスなど多様なデザイン活動を行う一方、地域づくりへの提言をさまざまな場で行っている。国内外の大学でデザインを教えるほか、建築の魅力を市民と共有するイベントを手掛けることでも知られている。福岡県文化賞、グッドデザイン賞など受賞多数。



いちむら つぎお
市村 次夫 氏

株式会社小布施堂 代表取締役

1948年長野県生まれ。1971年慶応義塾大学卒業後、同年信越化学工業株式会社に入社。1980年に同社を退社し、株式会社小布施堂代表取締役、株式会社樹一市村酒造場代表取締役に就任。小布施町の歴史に着目し、新しい発想によるまちづくりに取り組む。町並み修景事業、国際北斎会議 in 小布施の開催、まちづくり会社「株式会社ア・ラ・小布施」の設立、「小布施セッション」などを展開。社団法人21世紀ニュービジネス協議会会長、財団法人長野県国際交流推進協会理事を歴任。財団法人北斎館理事。1998年、日本建築学会文化賞受賞。2005年、デザインエクセレントカンパニー受賞。2009年、藍綬褒章受章。



ほつく よしひさ
北國 恵久 氏

株式会社北國 代表取締役社長

1955年、鳥根県松江市美保関生まれ。鳥取県米子市の醤油会社に勤務した後、大正11年創業の醤油醸造メーカーの3代目を継ぐ。地域の活動にも積極的に取り組み、美保関町連合青年団長、美保関町商工会青年部長を務める。1992年、社団法人境港青年会議所理事長、1994年、社団法人日本青年会議所鳥取ブロック協議会副会長を歴任。1998年には美保神社御遷座祭奉祝実行委員長、浜美化推進機構実行委員会委員として活動を推進した。鳥根県醤油工業協同組合理事。まつえ北商工理事。美保関地域観光協議会会長。美保関地域協議会委員。境港ロータリークラブ会員。



なかの よしふみ
仲野 義文 氏

石見銀山資料館 館長

1965年広島市生まれ。別府大学文学部史学科卒業。財団法人鉄の歴史村地域振興事業団学芸員を経て、石見銀山資料館学芸員となる。2007年4月から現職。石見銀山遺跡の世界遺産登録にあたっては、調査研究活動及び市民による学習や保全活動に取り組んだ。石見銀山遺跡調査活用委員会委員、田部家古文書調査員、浜田市文化財審議会委員、しまねミュージアム協議会会長、地域博物館活性化実行委員会副委員長。日本近世史を専門とし、主として銀山やたたら製鉄などの産業史を研究。主な著書に『銀山社会の解明—近世石見銀山の経営と社会—』(清文堂)、『街道の日本史 出雲・石見銀山街道』(共著・吉川弘文館)他。



ふじはら ひろし
藤原 洋 氏

地域博物館活性化実行委員会 委員長

1944年鳥根県生まれ。1963年、吉田村役場に入庁。第3セクター・株式会社吉田ふるさと村、次いで1988年に財団法人鉄の歴史村地域振興事業団を設立し、専務理事に就任。この間、一貫して「鉄の歴史村」づくり事業に取り組む。その後、地域の未来のための研究機関・株式会社シーズ総合政策研究所を設立。「文化と産業のパートナーシップ」を理念とした地域づくりに取り組んでいる。2008年～2010年、サントリー文化財団の支援により「市町村合併後のミュージアムと地域活性化」について共同研究を行い、2011年「全国地域ミュージアム活性化協議会」を設立して事務局長理事に就任。

[参加申込書] TEL/FAX: 0852-73-9252 Email: nonno@white.plala.or.jp

(ふりがな) _____ 〒 _____

お名前 _____ ご住所 _____

お電話番号 _____

ご参加内容 フォーラム (人数: _____ 名) レセプション (人数: _____ 名)

※申込締切 9/18(火) (定員になり次第、締め切らせていただきます)